(6) 国語科の授業づくりのポイント

ア 年間指導計画を立てる（年度当初に行う）

身に付けさせたい言語能力を年度の中で確実に指導するために，時期，領域の指導事項，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項，言語活動例，教材を一覧できる年間指導計画を立てます。系統性に配慮しながら，全ての指導事項と言語活動例を，年間でバランスよく配置します。

・各単元では，扱う領域や重点的に扱う指導事項を絞り込み，身に付けさせたい力を焦点化します。単元によっては，一つの指導事項を分割し，更に絞り込みます。
・［伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項］を，領域の指導事項と関連させ，全ての単元に位置付けます。
・身に付けさせたい力に適した言語活動例を選択します。その際，目標と同じ領域から選択することを基本としますが，適したものがなければ，他領域や他学年から取り上げたり，他のものを設定したりすることもできます。
・身に付けさせたい力の系統性を考え，意図的に教材を配列します。

【小学校４年生「書くこと」における年間指導計画　例】

月	時数	指導事項						伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	言語活動例						教材名
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ		ア	イ	ウ	エ	オ	他	
5	11			◎				ｲ(ｴ)		○					学級新聞を作ろう
7	10		◎			○		ｲ(ｸ)			○				見学したことを報告しよう
9	9	◎					○	ｲ(ｷ)	○						物語の作り方をくふうしよう

※各指導事項，言語活動例の各項目については，学習指導要領，または，(5)学習内容の系統(p.20～29)を参照すること。

イ 児童生徒の実態を把握する

指導事項に照らし合わせて，児童生徒が身に付けてきた言語能力の実態を把握します。

（例）○時間的な順序，事柄の順序にしたがって，文章を書く。
　　◆段落相互の関係を意識しながら，目的に応じて中心となる内容の事例を挙げて説明する。

※○は身に付けてきた力，◆は課題が見られる力を表しています。

ウ 指導事項（身に付けさせたい力），言語活動例，教材を再確認する

児童生徒の実態を踏まえて指導事項（身に付けさせたい力）を確認し，次にそれを身に付けるのに適した言語活動例と教材を再確認します。変更する場合は，年間指導計画と照らし合わせながら，年間で全ての指導事項や言語活動例を扱えるよう留意します。

エ 選択した教材について特長を明確にする

身に付けさせたい力や言語活動に留意しながら選択した教材を分析し，特長を明らかにするとともに，必要に応じて一部分を用いたり，他の教材と組み合わせたりします。

（例）中心となる内容を明確にし，段落相互を関係付けながら書く力を付ける上で適している。

オ 単元目標を設定する

※「授業づくり指針　国語科」では，「単元」を「単元目標」の実現を図る授業展開のまとまりとして捉えています。（参照：「３　小学校・中学校における学習（授業計画例）」）

例【単元目標】
①関心を持った出来事が伝わるように，構成等を工夫しながら新聞記事を書こうとする。
〈国語への関心・意欲・態度〉
②書こうとすることの中心を明確にし，事実が的確に伝わるよう理由や事例を挙げながら書く。
〈「書くこと」ウ〉
③句読点を適切に打ち，また，段落の始めについては行を改めて書く。
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ｴ)〉

(ｱ) 言語活動と身に付けさせたい力を具体化する

言語活動例を，身に付けさせたい力，児童生徒の実態，教材の特長と照らし合わせながら具体化します。また，実際に言語活動を行うために必要な言語能力を整理し，重点的に身に付けさせたい力を具体化するとともに，単元において活用させたい言語能力を明確にします。

(ｲ) 単元目標を設定する

国語科の単元目標は，年間指導計画を基に①「国語への関心・意欲・態度」②「領域の指導事項」③「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の３点をセットにして構成します。

①「国語への関心・意欲・態度」

「領域の目標」を基にして，言語活動を入れながら，全ての単元において設定します。

②「領域の指導事項」

基本的に１単元に１領域で設定し，選択した指導事項を，教材・言語活動に合わせて具体化します。

③「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

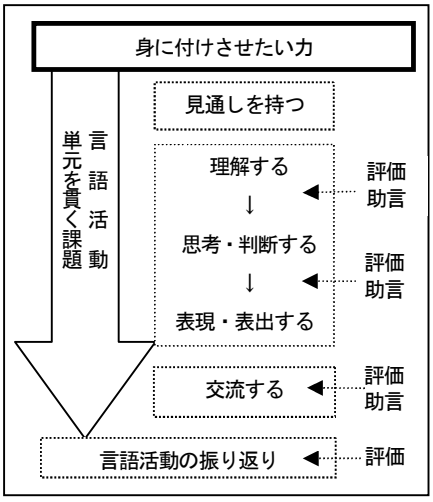
〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を基にして，全ての単元において設定します。

(ｳ) 評価規準を設定する

単元目標に即して，評価規準を設定する。

カ 単元展開を構想する　※例えば，次のように単元展開を構想する

単元の構想・学習活動(例)



(ｱ) 単元を貫く言語活動を位置付ける

言語活動を通して言語能力を身に付けるよう，言語活動を指導過程に有機的に位置付けます。その際，言語活動を目標としないように留意します。

(ｲ) 学習活動を構想する

・見通しを持つ

身に付けていく力，学習展開，単元を貫く課題等，学習の目的や方向性を持たせます。

・理解する

身に付けさせたい力や言語活動の特性などを具体的に理解させます。また，言語表現や表現の工夫などを的確に理解させます。

・思考・判断する

理解したことを基に，課題解決の中で思考・判断させます。

・表現・表出する

考えたことを，身に付させたい力に照らし合わせながら表現・表出させます。

・交流する

考えや根拠，思考過程などを互いに説明させることで，個の考えを深めさせます。

・自らの言語活動を振り返る

他者評価などを関連させながら，自らの言語活動や課題解決の過程を振り返らせます。目標の到達度を客観的に評価させ，身に付けてきた力や課題に気付かせます。

キ 評価する

(ｱ) 児童生徒の目標の実現状況を評価する

・目標と評価規準を一体のものとして捉え，観点に即して，評価します。

・学習結果としての表現物を評価するとともに，学習過程での評価を有機的に組み込んでいきます。

・学習過程における評価を，次の指導に生かしていきます。

(ｲ) 教師の指導の在り方を評価する

a 単元目標と言語活動との関わりを評価する

・個々の言語能力に高まりが見られたか，設定した単元目標の適性を評価します。

・設定した言語活動は言語能力を育む上で効果的であったか，言語活動の適性を評価します。

b 評価規準の適性を評価する。

・規準に即して児童生徒が身に付けた言語能力を評価できたか，評価規準の適性を評価します。